

学校評価アンケートの結果をもとに取組を継続中です！

学校教育目標

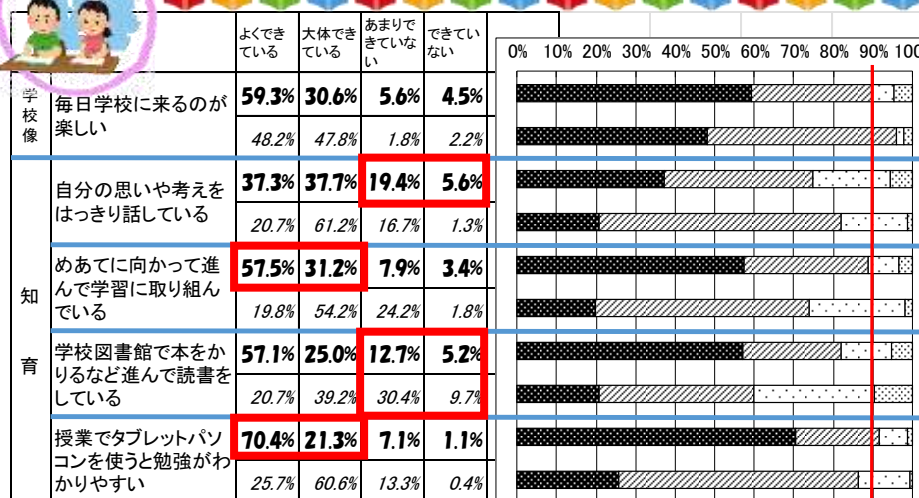
自ら学び考え、行動する、「生きる力」を身に付けた子どもの育成

<めざす子ども像>

うまれた課題をあきらめずに探究する子ども
めあてにむかって多様な人と協働する子ども
ことばをたくみに使って、対話でつながる子ども

うんどやスポーツを楽しむ子ども
じぶんも友だちも大切にする子ども

保護者の皆様にご協力をいただいているアンケート調査は、学校評価の大切な指標として、そのご意見を本校教育に生かす取組を進めてまいりました。今年度も、1学期末に第1回目のアンケートにご協力をいただき、明らかになった継続すべきところ、改善すべきところを生かした取組を日々継続しているところです。



※各設問、上段は児童の回答、下段は保護者の回答

「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして！

本校が継続して取組を進めている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組も6年目になりました。

主体的な学び……

- ✿ 学習の見通しがもてるよう、学習のゴールの姿や1時間の学習の流れを明示する。
- ✿ 意欲的に学習に向かえるよう、学習のめあてや学習の進め方を子どもたちとともに設定する。
- ✿ 学習のめあてを子どもたちの生活に関わるような、日常的で必然性のあるものにする。

梅小路小学校が大切にしている学習のスタイルです。

先日(11月18日)の研究発表会では、北は北海道から、南は九州大分県まで、150名近くの教育関係者の方々をお迎えして、子どもたちの姿を通して、梅小路小学校の取組について発信することができました。参加いただいた方々からは、「継続してきている取組によって、意欲的に学ぶ子どもたちの姿があった。」と取組を評価していただいているご意見をたくさんいただくことができました。実際に、子どもたちのアンケート結果も「めあてに向かって進んで学習に取り組んでいる」姿が90%に迫るものになっていました。今後も取組を継続することで、「できている」と実感できる子どもたちを増やしていくとともに、「よくできている」と答えてくれる子どもたちを増やし「主体的な学び」の実現を確実にしていきたいと思います。

対話的な学び……

一方で、「対話的な学び」の実現には、さらに工夫した取組が必要だと気づかされるアンケート結果となりました。梅小路小学校では、「言語能力を基盤とした汎用的能力」を「主体的・対話的で深い学び」を実現するための大切な資質・能力であると考えています。そのため、言語活動を常に学習に位置づけることで言語能力の育成を進めようと考え、日々学習指導にあたっています。ご家庭で子どもたちからお話を聞かれることもある

かと思います。「ペアワーク」「グループワーク」「クラスワーク」常に、学級の友だちと意見や考えを交流しながら学習を進めています。アンケート結果からは、4人に1人近くの割合で、「自分の思いや考えを話すことがうまくできていない」と感じている子どもたちがいるようです。うまくできていない原因はどこにあるのか？そもそも、話すためにまず自分の考えがもっているか？話し方や伝え方がわからなくて困っているのではないのか？ペアワークでもうまく話すことができていないのか？安心して話せるように周りの子どもたちはしっかりと聞くことができていないのか？毎日の学習の中で、具体的にどこを改善していけばよいのか追究していきたいと思います。



「主体的な学び」と「対話的な学び」の間で……

導入されて二年目をむかえている一人一台タブレット端末。導入期から充実期に入り、「ただ使う」から「必然的に使う」「効果的に使う」というレベルへの発展を目指して、日々の学習指導に臨んでいます。教科や指導内容によって、タブレットの活用の仕方に多様な方法が見られるようになってきています。子どもたちの「わかりやすい」が学力の向上につながっているのか、しっかりと検証しながら、さらなる活用を開発していきたいと思います。一方で、保護者からは、「健康面への不安」「情報モラルへの不安」といった様々なご心配があることをアンケートの自由記述で、示していただいています。これについても、効果的な活用を見い出すが、タブレット一辺倒にはならない学習につながり、ひいては安心・安全なタブレットの活用につながると考えています。



「読書活動」で「言語能力」の育成を……

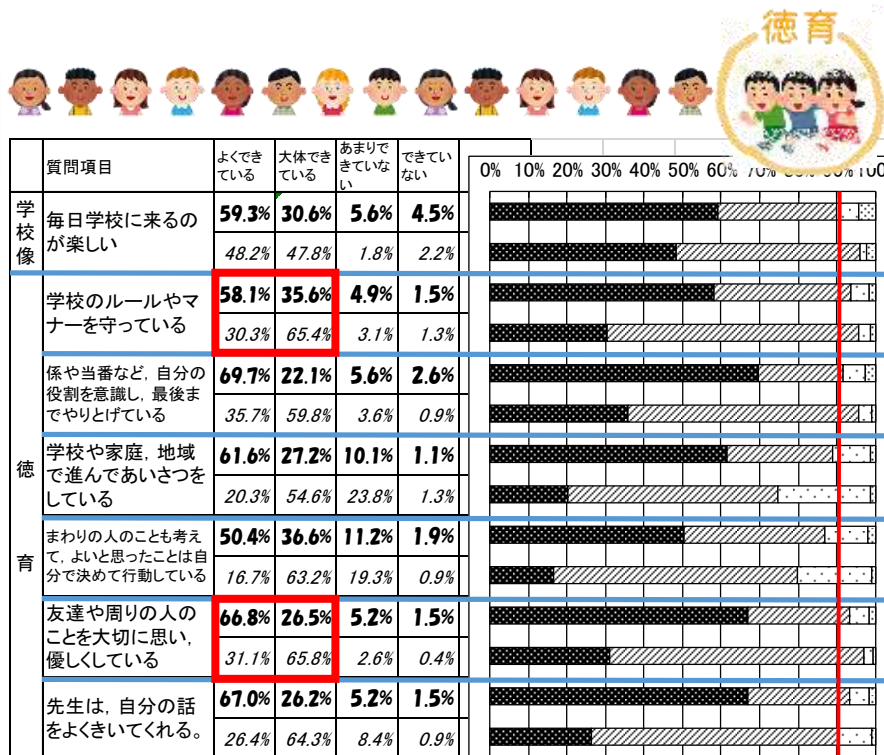
11月は「もみじ読書月間」でした。年に2回（6月と11月）設定している取組です。コロナ禍以前は、読書週間として取り組んできましたが、学校図書館の利用人数等を考え、期間を一か月にしました。児童アンケートにもその結果が表れているのか、他の質問項目と比べて、決して実現度が高いわけではありませんが、昨年度と比べると実現度は上がっています。（対昨年度末12ポイント増）要因としては、読書を推進する取組の期間を延ばしたことで、子どもたちが意識できる期間も多くなったことが考えられます。また、継続してご家庭での連携の協力も「お家DE読書」の取組でお願いしています。家庭での素敵な読書活動のご報告もいただいています。さらに、学校司書との連携も進め、「読書100冊の木」を図書館前に設置するなど、今後の読書活動につながる取組を継続・発展させていきたいと思っています。

「自分も友だちも大切にする子」をめざして！

「友達や周りの人のことを大切に思い、優しくしている」という項目では、児童も保護者も高い実現度を示しました。全項目の中でも1位、2位という結果でした。

先週から始まっている人権ウィーク。今年度は「お互いを知り、認め合う」をテーマとしています。一人一人それぞれに、よいところがあり、ちがっているからこそ、多様な考え方が生まれたり、さらによりよいアイデアが生まれたりするのだと、日頃から子どもたちには伝えていきます。友だちのことを知るとともに、友だちの考えを受け入れ認める。それは、まさに知育のところで示した「対話的な学び」を実現する上では、必須条件です。

「どんな意見や考えを出しても、みんなに聞いてもらえる」そんな受容的な学級集団こそ、安心して、友だちと力を合わせて主体的に活動を進めることができます。これからも、大切にしていきたい子どもたちの姿です。

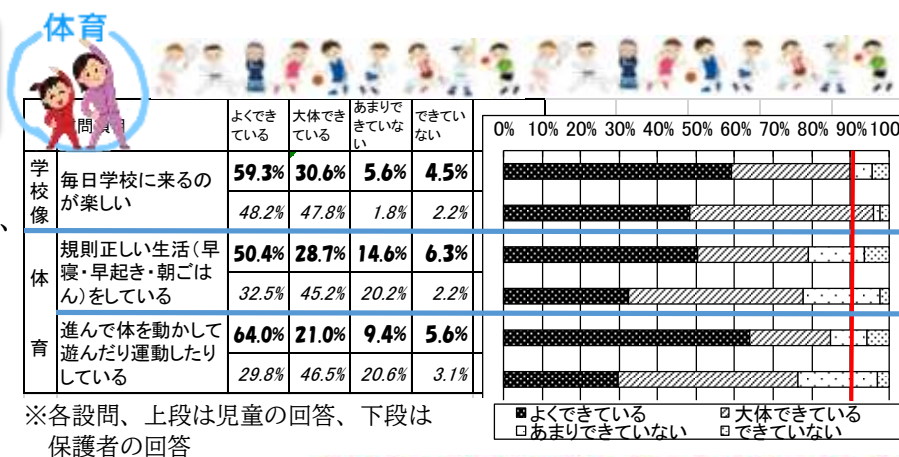


※各設問、上段は児童の回答、下段は保護者の回答

「うんどうやスポーツを 楽しむ子」をめざして！

「進んで体を動かして遊んだり運動したりしている」の項目は、昨年度に比べ、実現度が高くなっています。コロナウイルス感染症が確認され、いろいろな活動が制限された過去二年にくらべ、今年度はできることが増えました。学校での外遊びもその一つです。感染拡大を防止するねらいで、休み時間に遊ぶことができる学年を曜日ごとに決めたり、遊んでもよい遊び方を決めたりしていました。

今年度は、そのきまりを見直し、全学年の子どもたちが、一度に遊べるようになり、できる遊びを増やしたりしました。また、月に一度のフレンドリーあそびも確実にできるようになったり、児童会が企画する外遊びや運動もできるようになりました。それらの機会が増えたこともアンケート結果に出ていると思います。これからも、ウィズコロナを意識して、感染対策は継続しながら、子どもたちの体を動かすことへの関心や意欲を高めていきたいと思います。



保護者の皆様からのご意見より

いろいろなご意見をいただきましたが、特徴的な内容についてまとめさせていただきます。

タブレット端末の活用について

◇タブレット学習が充実している様子が。学校での活用なども見ることが出来て、上手く学習に取り込めているなあと思いました。

◇課題の提出や音読でタブレットを活用することはとてもいいことだと思います。

◆タブレットの持ち帰りが始まりましたが、ランドセルがすごく重いです。雨の日、体育等ある時はなおさらです。

◆タブレットの使用頻度が増え、最初は喜んでいましたが、だんだんと目が疲れるということが増えました。タブレットを近距離で長時間使用することに近視が進むことへの不安があります。

タブレット端末については、+面・-面両方のご意見をいただいています。学習面への効果が期待できる反面、健康面への不安を感じておられるご家庭が少なくありません。今後、全国的にタブレットの活用が当たり前となり、学習方法の研究を進めていくことで、必要に応じたより効果的な活用を進めていければと思います。荷物問題については、今後、デジタル教科書の導入が検討されていくことも国レベルで広報されています。今、いろいろなことが過渡期を迎えているのだと思いますが、ベストミックスを模索していく必要があります。子どもたちが不安や困りごとをご家庭でお話しましたら、遠慮なく学校へご連絡ください。

コロナウイルス感染症について

コロナウイルス感染症に関しては、特に、暑い季節のアンケートとなったため、マスク着用と熱中症に対する不安を記述いただいている保護者が複数おられました。国や教育委員会の方針を受け、より良いコロナ対策の在り方を模索しながらの教育活動が続きます。感染防止対策については、学校だけでは十分ではありません。下校後、地域の中で生活する際にも、各家庭で感染対策を習慣づけていただくことが重要です。ご協力よろしくお願いします。

これ以外にも、様々な観点からご意見をいただいております。すべてを掲載することができていませんが、継続して検討課題としていきます。

第1回学校運営協議会役員会でも、アンケート調査結果をもとに、ご意見をいただきました。

「会話がしづらい状況ではあるが、コミュニケーション力は大切だと思うので、育ててほしい。」「タブレットは、技能の向上が必要な時もあるが、小学校段階ではそこにこだわりすぎるのは危険がある。思考するためのツールとして活用していく必要がある。」「梅小路小学校としてのアイデンティティーのようなものをつくり、学校を大切にする、学校を誇りに思えるというような心を育てていけるとよい。」学校の取組や子どもたちの様子から、現状分析をしていただきました。そして、学校と地域、保護者が同じ目線で温かく子どもたちを見守っていけるとよいということを確認していただきました。

令和4年度 全国学力学習状況調査の結果について

今年度、4月19日に本校6年生を対象に実施された「全国学力調査」について、結果をお知らせします。本調査は、国語と算数・理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

【総合結果（国語・算数・理科）】

3教科とも全国の平均正答率と同等かそれ以上の結果でした。無答は、全体的に少ないものの、記述を求められる問題で複数見られました。継続した取組が必要と言えます。

【国語】

漢字の書き取りでは、正答率が高く、国語における基本的な知識・技能は身につけていると言えます。

一方で「自分の考えをまとめ書く」問題や「人物像や物語の全体像を具体的に想像して書く」など、記述を要する問題で低い正答率となっていました。これまでも本校が大切にしてきた、「対話的な学び」で得たことをいかに表現するのか、特に文章でしっかりと表現する力の育成を今後もコツコツと継続していききたいと思います。

【算数】

正しく計算したり、図形の性質や構成について正しく答えるなどの知識・技能を問われる問題は確実に正答することができています。

一方で、百分率を分数で表したり、基準量から比較量を求めたり、割合の意味を正しく理解しているか問われたりする問題や面積を求める問題で複数の図形を組み合わせた図形の面積の求め方を記述する問題では低い正答率となりました。

ドリルなどを活用して、学習した内容の適応問題をくり返し解くことで学習したことを定着させることが大切です。

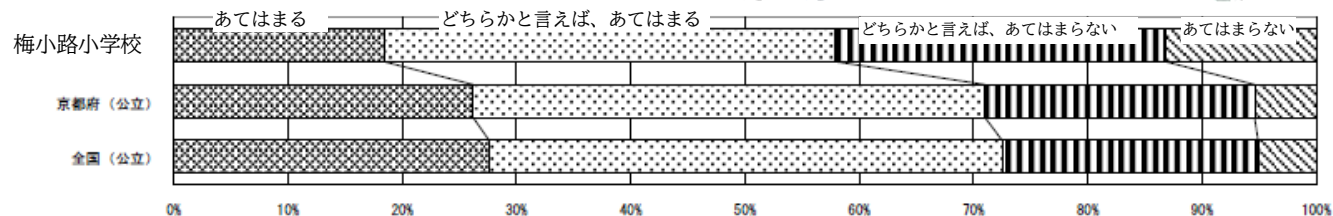
【理科】

実験や観察の結果、自然の事物・現象から得た情報をもとに、設定された条件のもとで分析してまとめた自分の考えを問われるような問題では、高い正答率となりました。

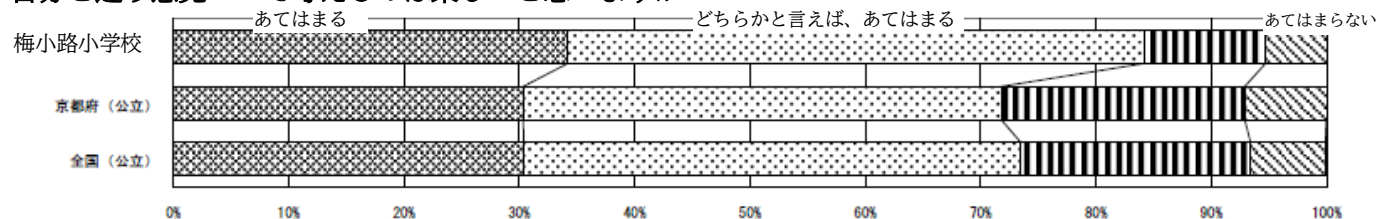
一方で、自然の事物・事象に関する基本的な知識・理解を問われる問題で、正答率が低くなる問題がありました。算数科同様、学習した内容を整理し、確実に知識とすることが大切です。

【児童質問紙より】

難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか



自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



自分の考えをしっかりともち、言葉で表す。そして、友だちと考えを交流する中で、自分の考えと比較検討する。批判的に考えること（critical thinking）を日常的に積み重ねてきている成果です。批判は一方的に反対するのではなく、根拠をもって自分の考えと比較します。同じ考えでも、理由がちがったり、途中の道筋がちがったり、そういうところがないか、比べ考えます。そうすることで、対話力がどんどんついていきます。一方で、挑戦することに自信がもてない様子も明らかになりました。自信をもって挑戦するためにも、基礎的・基本的な学力を確実に身につけておくことは大切です。

これまでから、自分から進んで学ぶ力、いろいろな人と対話や協働を通して学ぶ力を大切にしてきました。6年生は、これまでの取組を一番長く積み重ねている学年です。今回の結果から、これらの力を大切にした学習の進め方を今後も続けることが大切であると分かります。一方で、基礎基本の学習については、反復練習が大切です。家庭での自主学習などを活用して、その日に学んだことをしっかりと復習する習慣が身につくとよいですね。学校と家庭の連携で学習効果を高めていけるようにしていきたいと考えます。

今後も、子どもたちの健やかな育ちと学びの実現にご協力をお願いします。